

鹿児島県障害者スポーツ 普及検討委員会

第2回検討委員会



平成28年6月16日（木）
県庁7階会議室（7-A-2）

※ 中央の図は、全国障害者スポーツ大会のシンボルマークです。

鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会

第2回検討委員会 資料目次

・ 資料 1	鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会委員の変更について	… 1
・ 資料 2	鹿児島大会に向けた選手の確保・育成の基本的な考え方	… 3
・ 資料 3	今後の具体的な取組	… 5
・ 資料 4	取組の推進体制	… 13
・ 資料 5	鹿児島県の障害者スポーツの現状と課題（修正）	… 15
・ 資料 6	第10回鹿児島県障害者スポーツ大会の開催状況	… 21
・ 資料 7	平成28年度九州ブロック予選会の開催状況	… 23
・ 資料 8	障害者スポーツ振興事業	… 25



鹿児島県障害者スポーツ大会普及検討委員会
委員の変更について

(敬称略)

所属機関・団体	新任者 職 氏名	旧任者 職 氏名
社会福祉法人 鹿児島県手をつなぐ育成会	社会参加推進員 はるた まこと 春田 眞	書記 せき ともゆき 関 智之
鹿児島県障害者 フライングディスク協会	事務局長 かみむら こうじ 上村 広二	事務局長 かじや てつろう 加治屋 哲郎
鹿児島県総合体育センター	体育研修主事 さこだ あきひろ 迫田 明博	体育研修主事 たけした けんいちろう 竹下 健一郎

(※旧任者の職は委嘱時のものです。)

鹿児島大会に向けた選手の確保・育成の基本的な考え方（案）

1 取組の基本目標

(1) 鹿児島大会に向けた選手の確保と育成

ア 全ての実施競技への出場

全国障害者スポーツ大会は、障害の種類、程度、年齢、性別等により、多数の出場区分毎に実施されることから、より多くの障害者に障害者スポーツへの参加を促し、全ての実施競技への出場を目指す。

イ 障害者スポーツ支援の輪の拡大

障害者スポーツでは、障害者スポーツの指導者をはじめ、選手や競技の実施を支える支援者が必要不可欠であることから、指導者・支援者を確保・育成することにより、障害者スポーツ支援の輪を広げる。

(2) 大会を契機とした社会参加の一層の推進

鹿児島大会に向けた取組が一過性のものにならないよう、引き続き関係機関・団体等との連携を保ちながら、障害者スポーツの普及拡大に努めるとともに、障害や障害者スポーツに対する県民の理解を深めることにより、障害者の社会参加の促進を図る。

2 取組の対象期間

次に掲げる3つの期間に区分した上で、主として平成32年の鹿児島大会における本県選手の活躍を目指して、選手の確保・育成を図るとともに、本大会に向けた取組が一過性のものにならないよう、本大会終了後の平成33年度以降の障害者スポーツ振興の維持・定着を視野に入れて、各取組を実施する。

○ **拡大期**…障害者スポーツの裾野を拡大し、選手の発掘に重点を置く。

(取組例)・障害者スポーツ体験教室の開催

- ・団体競技チーム結成に向けた選手、指導者、練習場所の確保
- ・各団体の取組実施に向けた体制整備

○ **充実期**…選手の競技力やチーム力の向上に重点を置く。

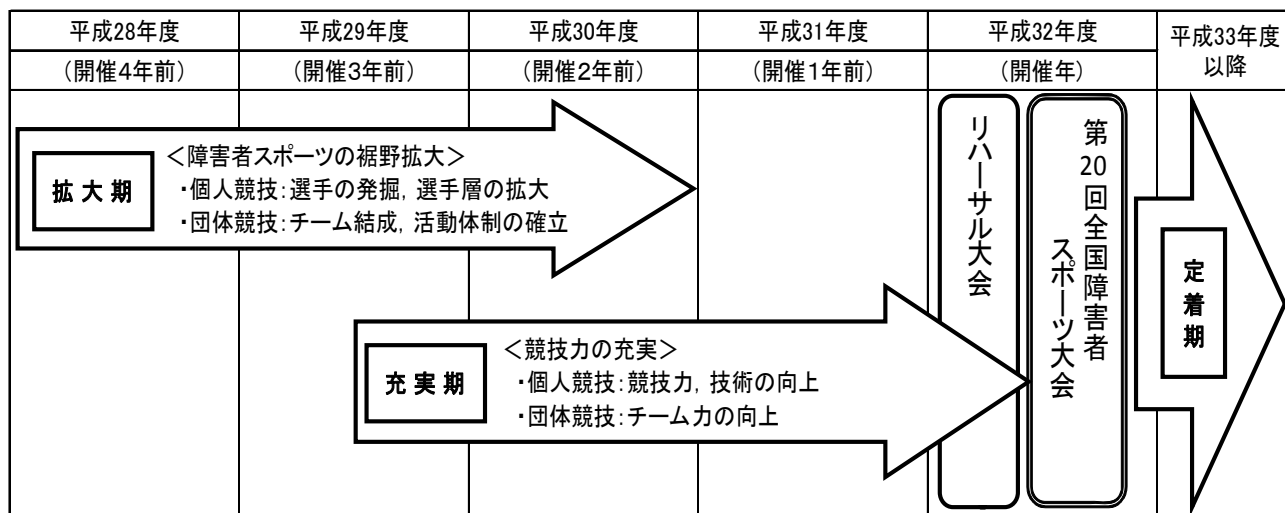
(取組例)・専門の指導者を招いた強化練習会や強化試合の開催

- ・継続的な取組実施に向けた体制整備

○ **定着期**…鹿児島大会終了後の障害者スポーツ振興の維持・定着

(取組例)・個人競技、団体競技の継続的な練習会の開催

- ・各団体間の連携体制の維持・定着



今後の具体的な取組（案）

1 選手の確保・育成に向けた取組

(1) 地域における障害者スポーツ活動の拠点づくり

障害者がスポーツ活動に参加するため、交通・移動手段を確保することが大きな負担となっていることから、県内の各地域に障害者スポーツ活動の拠点を作り、障害者が日常的にスポーツ活動に参加しやすい環境を作る必要がある。

拠点づくりについては、各地域の特別支援学校や障害者支援施設、市町村体育協会、コミュニティスポーツクラブ等と連携し、単に活動場所の確保だけではなく、各地域のスポーツ活動の企画・実施を継続的に行える体制づくりを推進する。

(2) 障害者スポーツ指導員及びスポーツボランティアの養成

障害者スポーツ活動には、障害の特性を理解し健康や安全管理に配慮した指導を行う障害者スポーツ指導員と、選手の行動をサポートし必要な補助を行う補助者が必要である。

選手の家族や施設職員が補助者となることが多いため、家族や施設職員の負担が継続的なスポーツ活動の実施の障壁となっていることから、家族や施設職員に代わり、補助者として選手をサポートするスポーツボランティアを養成することで、スポーツ活動の継続的な実施を支援することが必要である。

障害者スポーツ指導員の養成については、例年実施している指導員養成講習会に、競技団体やコミュニティスポーツクラブ等からの参加を働きかける。

スポーツボランティアの養成については、県障害者自立交流センターにおいてスポーツボランティアの養成を行っていることから、同センターと連携し十分なボランティア数を確保していく。

(3) 障害者スポーツの情報発信

鹿児島大会に向けた選手の確保と育成を効果的に進めるためには、障害者に対して障害者スポーツに関する各種情報を効果的・継続的に発信していく必要がある。

そのために、障害者スポーツの情報発信については、行政機関や各障害福祉団体を通じた情報発信に加え、コミュニティスポーツクラブや各教育委員会、各特別支援学校等と十分に連携し情報発信を行っていくほか、ホームページ等により障害者スポーツの情報を広く発信していく。

また、障害者スポーツの情報やその取組状況を広く県民に発信していくことにより、鹿児島大会に向けた機運の醸成を図っていく。

2 各競技における選手の確保・育成に向けた取組

(1) 陸上競技（身体・知的）

① 出場できる障害種別

ア 肢体不自由，イ 視覚障害，ウ 聴覚等障害，エ 内部障害（ぼうこう又は直腸機能障害），オ 知的障害

※ア～エを身体障害という（以下同じ）。ア，イについては障害程度により区分化されている。

② 実施状況

陸上競技は，競技種目によっては特別な競技用具等も不要なことから，比較的参加しやすい競技であるが，肢体不自由の一部の障害区分では，競技用車いすが必要となる。

県障害者スポーツ大会（以下「県大会」という。）では，内部障害の参加者が少なく，また身体障害者の高齢化が進んでいる。

③ 今後の対応

鹿児島大会において最も出場選手枠が増加する競技であることから，選手を確実に確保する必要がある。

また，陸上競技は，種目と障害区分及び年齢区分により出場種目が細分化されていることから，県大会における種目ごとの参加者数を分析し，参加が少ない種目については，その障害区分や年齢区分などをもとに対象者を明確にした上で，各障害福祉団体，各特別支援学校等と連携し，選手の確保を図っていく。

陸上競技の魅力は自己記録更新へのチャレンジであることから，競技の普及，選手の確保を図るため，定期的な陸上記録会や記録を伸ばすための練習会の開催を検討する。

(2) 水泳（身体・知的）

① 出場できる障害種別

ア 肢体不自由，イ 視覚障害，ウ 聴覚等障害，エ 知的障害

※ア，イについては障害程度により区分化されている。

② 実施状況

水泳競技は，他の競技に比べ事故が重大化する恐れがあるなど一人では始めづらい競技であり，支援者の存在が必要不可欠である。

県大会では，視覚障害，聴覚等障害における参加者が少ない。

③ 今後の対応

障害者が水泳競技に参加するためには，まず施設の受入体制の充実を図る必要があるため，各水泳施設やスイミングクラブの関係者に対し，各障害の特性や各障害の程度を踏まえた支援の在り方等について周知を行う。

また，障害者スポーツ指導員やコミュニティスポーツクラブを中心に支援者を確保することで，競技を始めやすい環境づくりを推進するとともに，競技の普及，選手の確保を図るため，定期的な水泳記録会や記録を伸ばすための練習会の開催を検討する。

(3) アーチェリー（身体）

① 出場できる障害種別

ア 肢体不自由，イ 聴覚等障害，ウ 内部障害（ぼうこう又は直腸機能障害）

※アについては障害程度により区分化されている。

② 実施状況

アーチェリー競技は，競技の実施場所が限られ，また，競技用具（アーチェリー）が一般に高価であることから，簡単に始めることができない競技である。県大会では，特に参加者が少ない。

③ 今後の対応

上肢に障害や不随意運動を伴う場合は競技への参加が難しく，出場可能である障害区分であっても，全ての方にとって取り組みやすい競技ではないため，競技への参加を促す上で配慮が必要となる。

アーチェリー競技の普及に当たっては，県アーチェリー協会及び県身体障害者アーチェリー協会と協力し，気軽にアーチェリー競技に触れることができる場を提供することで，競技の普及を図っていく。

(4) 卓球（身体・知的）

① 出場できる障害種別

【卓球】

ア 肢体不自由，イ 視覚障害（弱視等），ウ 聴覚等障害，エ 知的障害

※ア，イについては障害程度により区分化されている。

【サウンドテーブルテニス（S T T）】

ア 視覚障害（全盲等）

② 実施状況

卓球は，多くの体育館等で実施でき，気軽に始めやすい競技であり，県卓球連盟では，小中学生以外の会員誰もが出場できるシングルスリーグという大会を年10回程度開催しており，身体障害者の方が参加している。県大会では，聴覚等障害の参加者が少ない。

サウンドテーブルテニスは，視覚障害者にとって身体への負担や危険性が低く参加しやすい競技であることから，県大会でも参加が多い種目である。

指宿市のコミュニティスポーツクラブでは，定期的にサウンドテーブルテニスの活動が実施されている。

③ 今後の対応

卓球については，気軽に始めやすく，また個人競技の中にあって競技に相手が必要という競技特性を生かし，仲間づくりを意識した取組を進め，継続的な参加を促していく。

サウンドテーブルテニスは，専用の競技用具が必要なことや，周囲の風や音の影響がないなどの競技条件に適した場所が限られるといった課題があるため，今後は，県卓球連盟や県視覚障害者団体連合会と協力し，各地域に競技条件に適した場所を確保することで，競技の普及を図っていく。

(5) フライングディスク (身体・知的)

① 出場できる障害種別

ア 肢体不自由, イ 視覚障害, ウ 聴覚障害, エ 内部障害 (ぼうこう又は直腸機能障害), オ 知的障害

② 実施状況

フライングディスクは, 身体への負担が少なく, 比較的重度の障害者や高齢の障害者でも参加することができる。また, 競技は室内外を問わず一定の広さがあれば実施できることから, 手軽に始めることができる競技である。

県大会の参加者数は, 陸上競技の次に多いが, 視覚障害の参加者は少ない。

③ 今後の対応

フライングディスクは, 各障害者支援施設やコミュニティスポーツクラブ等でも手軽に始めることができるが, レクリエーションの一環と捉える場合が多い。今後は, 試合形式の競技会や記録会を開催することで, フライングディスクの競技としての認知度を高め, 選手の確保を図っていく。

(6) ボウリング (知的)

① 出場できる障害種別

知的障害のみ

② 実施状況

ボウリングは, 知的障害者のみが参加する競技であり, 県内のボウリング場の数が少ないことから, 練習場所が限られる。

③ 今後の対応

ボウリングは, レクリエーションの一環として実施されることも多いため, 試合形式の競技会を開催するなど, 競技としての定着を図る必要があり, 専門的な指導を行うことができる指導者を交えた練習会等を開催し, 選手の確保を図っていく。

(7) バスケットボール (知的)

① 出場できる障害種別

知的障害のみ

※男女別に実施

② 実施状況

平成26年度に, 鹿児島県初の知的障害者の男子バスケットボールチーム「鹿児島バルダーズ」が発足し, 平成27年度以降全国障害者スポーツ大会の予選である九州ブロック予選会に出場しているほか, プロバスケットボールチームレノヴァ鹿児島のホームゲームで前座ゲームを開催するなどの取組を実施しているが, 全国大会出場には至っていない。

平成27年度は, 県障害者スポーツ協会が, 各特別支援学校を中心にバスケットボール教室を実施し, その成果として特別支援学校対抗のバスケットボール大会を開催した。

③ 今後の対応

鹿児島バルダースや特別支援学校を中心に体験教室や練習会を開催し、男子チームについては選手の育成、チーム力の向上を図るとともに、女子チームについては、チーム発足に向けた選手の発掘と定着を図っていく。併せて、チームの指導者、支援者を確保し、継続的なチーム存続の組織体制の構築を図っていく。

(8) 車椅子バスケットボール（身体）

① 出場できる障害種別

肢体不自由者の車椅子使用者のみ

※障害程度に応じた持ち点制度があり、チーム編成は男女混合可

② 実施状況

車椅子バスケットボールは、昭和47年に本県で開催された第8回全国身体障害者スポーツ大会で初めて実施された団体競技である。

本県では現在2つのチームが活動しているが、選手の高齢化が進んでいる。

また、本県では健常者による車椅子バスケットボールチームが結成されており、合同練習の実施などにより競技力の向上を図っている。

全国障害者スポーツ大会の九州ブロック予選会に出場しているが、全国大会出場には至っていない。

③ 今後の対応

鹿児島県車椅子バスケットボール連盟を中心に、既存のチームを交えた体験教室や練習会を開催し、選手の発掘や現存の選手のレベルアップを図っていく。

また、全国障害者スポーツ大会の団体競技の中で唯一のパラリンピック実施競技であることから、リオパラリンピック、東京パラリンピックと連動した競技の広報を行い、全国障害者スポーツ大会の機運醸成を図っていく。

(9) ソフトボール（知的）

① 出場できる障害種別

知的障害のみ

※チーム編成は男女混合可

② 実施状況

県知的障害者福祉協会主催の知的障害者関係施設親善球技大会（以下「施設球技大会」という。）でソフトボール競技が実施されている。参加チームは各施設単位でチームを編成しており、チームには施設職員が選手として加わる場合もある。

このように、全国障害者スポーツ大会とは異なるルールで競技していることから、全国障害者スポーツ大会の九州ブロック予選会への出場には至っていない。

③ 今後の対応

施設球技大会を主催する県知的障害者福祉協会と協議し、同大会の出場施設を中心に、全国障害者スポーツ大会への出場チームを編成できないか検討していく。

競技の普及については、施設球技大会にソフトボール競技で参加している施

設と連携し、体験教室を開催するなど、既存チームの質の向上を図りながら、選手の発掘を図っていく。

(10) グランドソフトボール（身体）

① 出場できる障害種別

視覚障害のみ

※チーム編成は男女混合可

② 実施状況

グランドソフトボールは、社会人チームが1チーム活動しているほか、盲学校でも定期的な活動に取り組んでいる。

本県で唯一、全国障害者スポーツ大会に出場している団体競技であり、準優勝するなど好成績を収めているが、チームの高齢化が進んでおり、選手の発掘が必要である。

③ 今後の対応

既存チームや盲学校、県視覚障害者団体連合会等の連携により、選手発掘の取組を検討するとともに、既存のチームを中心とした練習会等の充実により、チーム力の向上を図っていく。

(11) バレーボール（身体・知的・精神）

① 出場できる障害種別

ア 聴覚障害、イ 知的障害、ウ 精神障害

※ア、イについては、男女別に実施、ウについてはチーム編成は男女混合

② 実施状況

聴覚障害のバレーボールについては、聾学校中等部、高等部では、体育の授業でバレーボールをしているが、チーム結成には至っていない。

知的障害のバレーボールについては、平成27年度から県手をつなぐ育成会を中心に、体験教室を開催しており、チーム発足に向けた取組が進んでいる。

精神障害のバレーボールについては、平成21年から県大会が開催されており、優勝したチームが全国障害者スポーツ大会の九州ブロック予選会に参加しているが、全国大会出場には至っていない。

③ 今後の対応

聴覚障害のバレーボールについては、聾学校をはじめとする各特別支援学校の在校生やそのOB、特別支援学校以外の学校に通学している聴覚障害のある生徒に対し、県聴覚障害者協会等の関係機関と連携しながら、競技の周知、選手の発掘を図っていく。

知的障害のバレーボールについては、引き続き県手をつなぐ育成会を中心に、体験教室を開催し、チーム発足に向けた選手の発掘を行うとともに、チームの指導者、支援者を確保し、チームが自立して活動することができる組織体制の構築を図っていく。

精神障害のバレーボールについては、県精神保健福祉会連合会主催の県大会を通じて、引き続きチーム力や選手の能力向上を図っていく。

(12) サッカー（知的）

① 出場できる障害種別

知的障害のみ

※チーム編成は男女混合可

② 実施状況

本県では、現在、NPO法人スポーツライフかごしまが運営するサッカーチームが全国障害者スポーツ大会の九州ブロック予選会に出場しているが、全国大会出場には至っていない。

サッカーは、一部の特別支援学校で部活動等の取組が行われており、競技の普及が進んでいる。

また、知的障害関係施設を中心にフットサル競技が普及しており、フットサルからサッカーへ競技転向するなど選手層も拡大している。

③ 今後の対応

サッカーは、特別支援学校や知的障害関係施設で普及が進んでいることから、今後は、選手の発掘を図りながら、選手の育成に重点を置いた取組を進めていく。

また、十分な選手数を確保し、複数のチームを編成することで、紅白戦の開催などを検討し、チーム力や選手の能力向上を図っていく。

(13) フットベースボール（知的）

① 出場できる障害種別

知的障害のみ

※チーム編成は男女混合可

② 実施状況

フットベースボールについては、体験教室等が開催されているものの、競技者が定着せず、チーム結成には至っていない。

フットベースボールは、ソフトボールに類似の競技であるが、投手がピッチャーズサークル内でボールを保持した時点で試合が停止となるなどの独自のルールもあることから、競技の実施にあたっては、ルールを熟知した指導者や審判員を確保する必要がある。

③ 今後の対応

フットベースボールについては、まずルールを広く周知する必要があることから、体験教室等を開催するにあたっては、併せてルールの講習を行うなどの取組を進めていく。

同じく足を使う競技であるフットサルやサッカーと連動した取組を実施し、競技転向を促すなど、選手の確保を図っていく。

取組の推進体制(案)

1 取組推進のための連携体制の構築

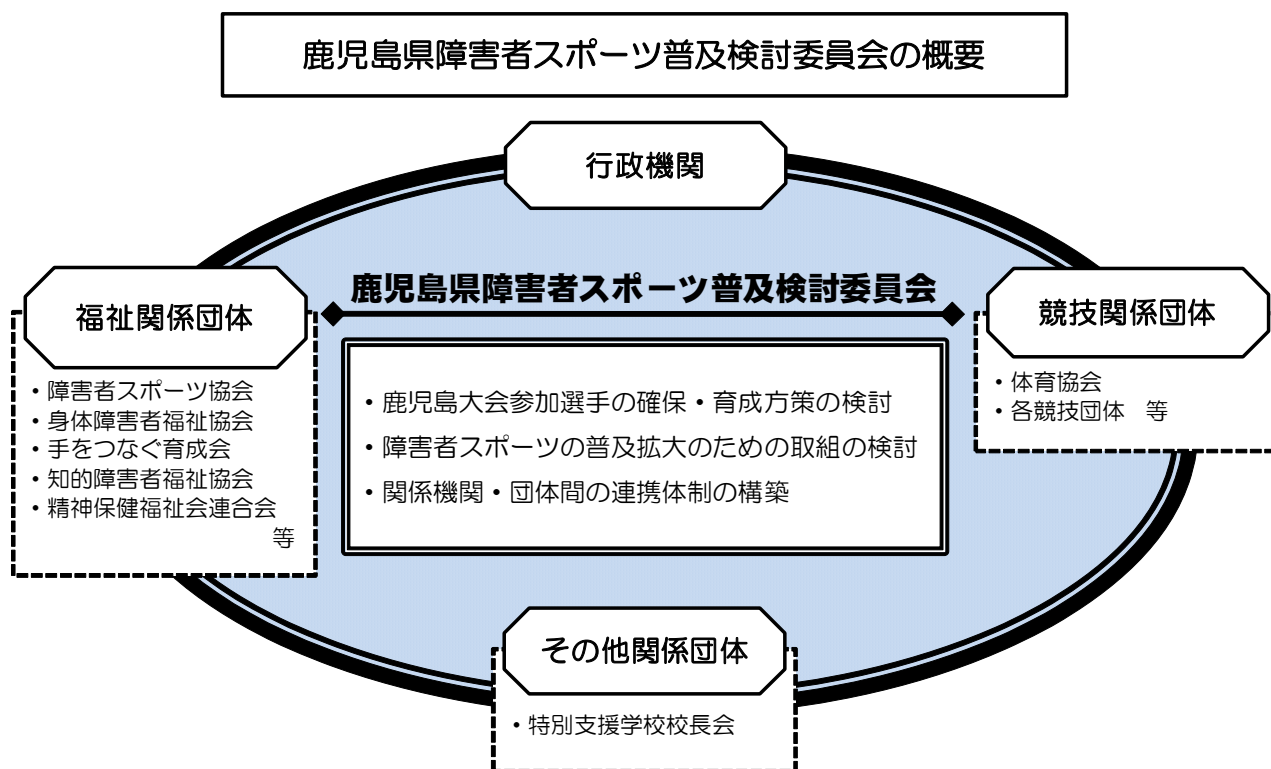
平成32年に本県で開催予定の第20回全国障害者スポーツ大会（以下「鹿児島大会」という。）に向けて、参加選手の確保・育成を図るとともに、鹿児島大会を契機として、障害者スポーツを普及拡大し、障害者の社会参加の促進を図るため、鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置した。

検討委員会では、鹿児島大会に向けた参加選手の確保・育成のための取組及び障害者スポーツ普及拡大のための取組について検討を行うとともに、取組を効率的、効果的に実施するための基盤となる関係機関・団体間の連携体制の構築を図る。

2 取組の推進体制

検討委員会は、鹿児島大会に向けた参加選手の確保・育成のための取組及び障害者スポーツ普及拡大のための取組を推進する組織として、福祉関係団体、競技関係団体、行政機関など関係団体と連携を図りながら、各取組の実施状況の分析・評価、各団体に対する指導・助言等を行い、鹿児島大会に向けた参加選手の確保・育成及び障害者スポーツの普及拡大の取組を推進する。

大会終了後も、同委員会において、引き続き各関係機関・団体等との連携を保ちながら、障害者スポーツの普及拡大に努め、障害者の社会参加の促進を図る。



鹿児島県の障害者スポーツの現状と課題（修正）

1 県障害者スポーツ大会の参加状況等について

(1) 障害者数の推移と県障害者スポーツ大会の参加者数の推移

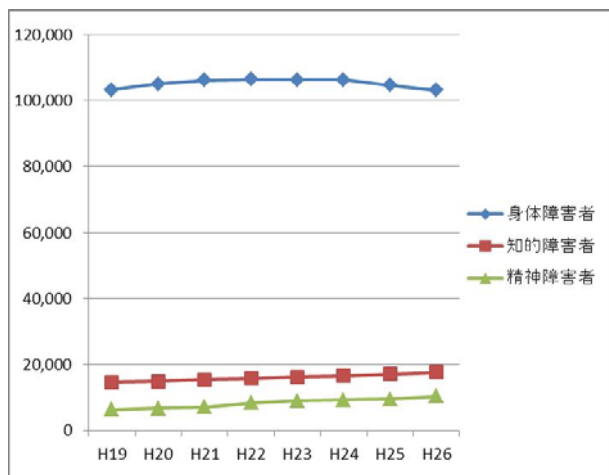
県内の障害種別ごとの手帳所持者数について、身体障害者は平成25年度から2年連続で減少したものの、知的障害者及び精神障害者はともに増加傾向にある。

県障害者スポーツ大会（以下「県大会」という。）の参加者については、知的障害者の参加者数が増加している一方、身体障害者の参加者数が減少しており、内部障害については平成26年度から2年連続で参加者がいない状況である。

なお、参加者総数は1,000人程度で推移している。

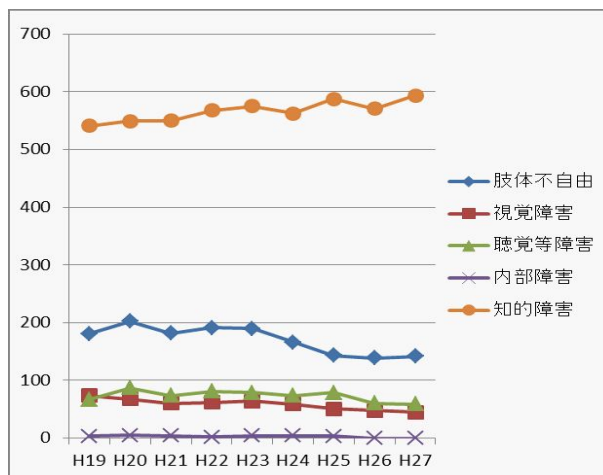
○障害者数の推移

(単位：人)



○県大会の参加者数の推移

(単位：人)



※レクリエーション競技を除く

ア 障害者数の推移（手帳所持者数）

(単位：人)

障害別	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H19～H26 増減率
身体障害者		103,182	105,003	106,170	106,386	106,275	106,368	104,654	103,034	102%
知的障害者		14,645	15,002	15,436	15,880	16,224	16,675	17,210	17,688	120%
精神障害者		6,330	6,632	7,100	8,333	8,957	9,289	9,546	10,432	154%
計		124,157	126,637	128,706	130,599	131,456	132,332	131,410	131,154	107%

イ 県大会の参加者数の推移

(単位：人)

障害別	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H19～H26 増減率
身体障害者	肢体不自由	181	202	182	191	190	166	143	139	142	-22%
	視覚障害	74	68	60	62	64	59	51	48	45	-39%
	聴覚等障害	67	87	74	81	79	74	79	60	59	-12%
	内部障害	3	5	4	2	4	4	3	0	0	-100%
	小計	325	362	320	336	337	303	276	247	246	-24%
知的障害者	知的障害	541	549	550	568	575	563	588	571	594	10%
	知的障害 (レクリエーション)	188	206	221	190	215	175	181	183	186	-1%
	小計	729	755	771	758	790	738	769	754	780	7%
合計		1,054	1,117	1,091	1,094	1,127	1,041	1,045	1,001	1,026	-3%

(2) 平成27年度県大会の参加状況（競技別，障害別）

参加者が少ない競技種目は、水泳（視覚，聴覚），アーチェリー（肢体不自由，聴覚），卓球（聴覚），フライングディスク（視覚）である。

なお，内部障害については，平成26年度県大会でも参加者はおらず，それ以前も3～5人と参加者が少ない。

障害別 競技別	肢体不自由	視覚障害	聴覚等障害	知的障害	内部障害	合計
陸上	75	23	30	346	0	474
水泳	15	1	2	31		49
アーチェリー	3		4		0	7
卓球	15	0	3	24		42
サウンドテーブルテニス		20				20
フライングディスク	34	1	20	145	0	200
ボウリング				48		48
レクリエーション				186		186
合計	142	45	59	780	0	1,026

2 団体競技の大会参加状況等について

(1) 団体競技のチーム化の状況

全国障害者スポーツ大会（以下「全国大会」という。）の団体競技では，バレーボール（聴覚男女，知的男女），バスケットボール（知的女子），フットベースボール（知的）がチーム化に至っておらず，チームがある競技もチーム数が少ない。

競技種目	障害区分	チーム数	現状及び活動状況
車椅子バスケットボール	身体 (肢体不自由)	2チーム	・桜島杯，朝日九州大会などの大会に参加している
グランドソフトボール	身体 (視覚障害)	1チーム	・本県で唯一，全国大会に出場したことのある団体競技である ・これまで7回，全国大会に出場し，3位1回，準優勝3回の成績を残している
バレーボール(男)	身体 (聴覚障害)	チーム無し	・聾学校中等部，高等部では，体育の授業でバレーボールをしているが，それ以外の取組はなく，チーム化に至っていない
バレーボール(女)	身体 (聴覚障害)	チーム無し	
サッカー	知的	1チーム	・一部の特別支援学校で部活動が行われるなど，普及が進んでいる ・類似した競技であるフットサルから選手が転向するなど，選手層が拡大している
バスケットボール(男)	知的	1チーム	・男子チームは平成26年7月に発足した ・平成27年度は，特別支援学校でスポーツ教室を行い，その成果として特別支援学校対抗の大会を開催するなど，普及の取組が行われているが，女子チームのチーム化には至っていない
バスケットボール(女)	知的	チーム無し	
ソフトボール	知的	チーム有り※	※知的障害関係施設親善球技大会に出場するチームはあるが，全国大会出場を懸けた九州ブロック予選会に出場していない
フットベースボール	知的	チーム無し	・フットベースボールの体験教室等を開催するも，チーム化に至っていない
バレーボール(男)	知的	チーム無し	・平成27年度からバレーボール教室の開催が本格的に始まるなど，普及の取組が進められているが，チーム化には至っていない
バレーボール(女)	知的	チーム無し	
バレーボール	精神	チーム有り	・施設，病院単位でチームを編成している ・平成27年度の県ソフトバレーボール大会には，12チーム出場している

(2) 団体競技の各種大会における参加者数の推移

ア 県ソフトバレーボール大会（精神障害）

（単位：チーム、人）

	H21 （第1回）	H22 （第2回）	H23 （第3回）	H24 （第4回）	H25 （第5回）	H26 （第6回）	H27 （第7回）
参加チーム数	7	6	7	15	11	12	13
参加者数	約100名	約100名	125	266	175	176	236

平成21年度から開催。参加チーム数は増加傾向である。

バレーボールは全国大会正式競技の中で、唯一、精神障害者が参加できる競技である。（精神障害ではソフトバレーボール球を使用）

優勝したチームは、全国大会の予選となる九州ブロック予選会に出場している。

※ 平成21年、22年の大会は記録が無いため、おおよその参加者数を記載

イ 桜島杯車椅子バスケットボール大会（肢体不自由）

（単位：チーム、人）

		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
総数	総参加チーム数	4	4	5	8	8	8	3
	総参加者数	40	39	43	65	78	76	35
鹿児島県	参加チーム数	3	3	4	3	3	3	3
	参加者数	33	31	36	30	32	33	35

平成22年に桜島杯に名称を変更し、平成27年度で第6回目。前身の大会は、平成20年から「鹿児島県車椅子バスケットボール連盟設立記念車椅子バスケットボール大会」という名称で開催されており、県外からも複数のチームが参加。

平成27年度は九州大会が本県で開催されたことから、県外チームの参加がない。

※ 参加チームには健常者チーム1チームを含む（平成23年のみ健常者チーム2チーム）

ウ （参考）県知事杯フットサル大会（知的障害）

（単位：チーム、人）

	H22 第1回	H23 第2回	H24 第3回	H25 第4回	H26 第5回	H27 第6回
参加チーム数	22	22	32	35	32	31
参加者数	156	159	228	250	230	224

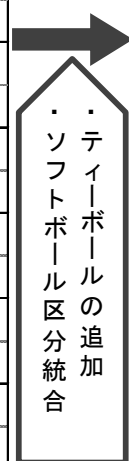
平成22年度から開催。参加者数は平成25年度までは増加傾向であったが、その後、2年連続で減少している。

競技者が全国大会の正式競技であるサッカーに転向するなど、サッカーの普及に関係している。

エ (参考) 知的障害関係施設親善球技大会 (知的障害)

(単位: チーム, 人)

			H23	H24	H25		
						H26	H27
総参加者数			889	910	876	763	833
総チーム数			107	113	112	106	105
ソフトボール	1部	人数	55	52	59	167	136
		チーム数	4	3	4	(人数)	(人数)
	2部	人数	201	157	155	11	9
		チーム数	13	10	10	(チーム数)	(チーム数)
ティーボール		人数	—	—	—	88	137
		チーム数	—	—	—	5	7
ソフトバレーボール		人数	113	103	112	108	89
		チーム数	12	12	12	11	10
グラウンドゴルフ	ライトクラス	人数	290	319	233	255	336
		チーム数	44	47	38	41	48
	ヘビークラス	人数	230	279	317	312	271
		チーム数	34	41	48	49	40



昭和55年から開催され、平成27年度で第36回目

ソフトボール、ティーボール(H26～)、ソフトバレーボール、グラウンドゴルフを実施。

平成25年度から参加者が増加傾向にあるが、ソフトボールの参加チームは減少傾向にある。

全国大会の正式競技であるソフトボールと異なるルールで競技しており、全国大会の出場を懸けた九州ブロック予選会には出場していない。

※ ルールが異なる部分

- ・ ソフトボール2部では、選手9名中に、男子職員1名、女子職員2名が加わることができる。(1部は施設利用者のみのチーム編成)
(H26からは1部、2部の区別なく実施)
- ・ 男子職員の守備位置は捕手のみ、女子職員の守備位置は投手以外。
- ・ 男子職員の打撃は不可。

3 全国障害者スポーツ大会の参加状況等について

(1) 個人競技の参加状況

全国大会の個人競技の選手については、開催県から示される出場選手枠に基づき、県大会の成績等を参考に、県代表選手を選考している。

代表選手選考後に辞退があったため、アーチェリー競技に出場していない大会がある。

(2) 団体競技の参加状況

団体競技については、グランドソフトボール競技が過去5年間では平成26年を除く4大会で、全国大会に出場している。

全国大会に出場するためには、九州ブロック予選会で優勝する必要があるが、車椅子バスケットボール、サッカー、バスケットボール（知的男子）、バレーボール（精神）は、九州ブロック予選会に出場しているものの、全国大会出場には至っていない。

(3) 全国大会開催県の選手数

全国大会開催県の選手数について、個人競技では参加選手枠が大幅に増枠され、先催県の例に従うと、本県開催時には約150人の出場が見込まれる。

団体競技では、九州ブロック予選会の出場に関わらず、開催県として出場枠が確保されるため、これまでの先催県ではいずれも、全ての団体競技に出場している。

		開催年	H23	H24	H25	H26	H27		H31	H32	H33
		開催県	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山		茨城	鹿児島	三重
個人 競技	陸上	身体・知的	17	16	18	20	17	出 場 選 手 枠 が 増 枠 (開 催 1 年 前)	22	69	28
	水泳	身体・知的	4	5	6	7	4		7	20	9
	アーチェリー	身体		1	1				2	4	2
	卓球	身体・知的	5	5	5	7	5		7	20	9
	フライングディスク	身体・知的	6	7	7	9	8		9	26	12
	ボウリング	知的	1	1	2	2	2		4	12	5
	個人競技計			33	35	39	45		36	51	151
団体 競技	車椅子バスケットボール	肢体不自由	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	て ず の ブ ロ ッ ク 予 選 会 に 出 場 可 能 と し ら れ る		12	
	グランドソフトボール	視覚	14	13	15	(予選出場)	14			15	
	バレーボール(男・女)	聴覚								24	
	サッカー	知的	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)			16	
	バスケットボール(男・女)	知的					(予選出場)			24	
	ソフトボール	知的								15	
	フットベースボール	知的								15	
	バレーボール(男・女)	知的								24	
	バレーボール	精神	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)			12	
団体競技計			14	13	15	0	14		157		
総計			47	48	54	45	50		308	65	

4 県内の主な障害者スポーツ活動団体

県や市町村、福祉団体や個別の競技団体以外に、県内で活動している主な団体は次のとおり。

(1) 鹿児島県障害者スポーツ協会

各都道府県に組織されており、障害者スポーツの振興を図るため、(公財)日本障がい者スポーツ協会等と連携し、各種大会の開催、研修・講習会の開催を行う。

(2) 鹿児島県障害者スポーツ指導者協議会

障害者スポーツ指導者のボランティア組織。各都道府県に組織されており、(公財)日本障がい者スポーツ協会、鹿児島県障害者スポーツ協会等と連携し、事業協力や地域での障害者スポーツの普及指導を行っている。

○本県の障害者スポーツ指導員数(平成27年12月31日現在)

(単位:人)

	初級	中級	上級	計
鹿児島県	221	34	9	264
全国	19,020	2,859	767	22,646

(3) スペシャルオリンピックス日本・鹿児島

知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を提供する国際的な組織であるスペシャルオリンピックスの地区組織。

本県では、主に鹿児島市と出水市で陸上、水泳、バドミントン、バスケットボールなどのスポーツプログラムを実施している。

5 本県の障害者スポーツの課題

(1) 障害者スポーツの普及拡大

全国大会の開催県では、個人競技の参加選手枠が大幅に増加し、団体競技では九州ブロック予選会の成績に関わらず出場できることから、鹿児島大会開催に向けて、より多くの障害者が大会に参加できるよう、障害者スポーツの普及拡大が必要である。

(2) 未普及競技種目の普及、団体競技のチーム結成への支援

個人競技について障害別では、視覚障害及び肢体不自由の参加者の減少が著しく、また、競技別では、参加者がいないまたは少ない競技があるため、各障害ごとの競技の普及が必要である。

団体競技については、チーム化に至っていない競技について、チーム化に向けた取組を支援するとともにチーム拡大等に努める必要がある。

(報告事項) 第10回鹿児島県障害者スポーツ大会の開催状況

1 開催日

平成28年5月15日(日)

- ・ 開会式 9:00 (県立鴨池補助競技場)
- ・ 閉会式 15:50 (県立鴨池補助競技場)

2 競技種目及び会場

	競 技	会 場	開 始 時 刻	終了予定 時 刻
①	陸 上	県立鴨池補助競技場	9:50	15:40
②	水 泳	ハートピアかごしま (室内プール)	9:30	11:30
③	卓 球	ハートピアかごしま (体育館等)	9:30	14:30
④	フライングディスク	県立サッカー・ラグビー場	10:00	15:00
⑤	アーチェリー	ハートピアかごしま (アーチェリー場)	10:00	13:00
⑥	ボウリング	サンライトゾーン	10:20	12:20
⑦	レクリエーション	県立鴨池補助競技場	9:30	15:20

3 参加者数一覧

区 分	人 数	内 訳
選 手	1,051人	・身体障害者選手:248人 ・知的障害者選手:803人
大会役員	74人	・大会役員, 来賓:74人
競技役員等	231人	・競技役員:181人 ・地区競技役員:50人
競技補助員・ ボランティア	443人	・高校生補助員:152人 ・大学, 専門学校補助員:248人 ・ボランティア:43人
そ の 他	111人	医師, 手話, 区分判定員, 企画委員, 大会事務局等
付添・応援等	約1,000人	
計	約2,910人	

4 県障害者スポーツ大会の参加者数の推移

(単位：人)

障害別		年度										H19~H28 増減率
		H19 第1回	H20 第2回	H21 第3回	H22 第4回	H23 第5回	H24 第6回	H25 第7回	H26 第8回	H27 第9回	H28 第10回	
身体障害	肢体不自由	181	202	182	191	190	166	143	139	142	146	-19%
	視覚障害	74	68	60	62	64	59	51	48	45	41	-45%
	聴覚等障害	67	87	74	81	79	74	79	60	59	60	-10%
	内部障害	3	5	4	2	4	4	3	0	0	1	-67%
	小計	325	362	320	336	337	303	276	247	246	248	-24%
知的障害	知的障害	541	549	550	568	575	563	588	571	594	608	12%
	知的障害 (レクリエーション)	188	206	221	190	215	175	181	183	186	195	4%
	小計	729	755	771	758	790	738	769	754	780	803	10%
合計		1,054	1,117	1,091	1,094	1,127	1,041	1,045	1,001	1,026	1,051	0%

(参考) 各競技・障害種別毎の参加状況

(単位：人)

競技別	障害別					
	肢体不自由	視覚障害	聴覚等障害	知的障害	内部障害	合計
	H27 → H28	H27 → H28	H27 → H28	H27 → H28	H27 → H28	H27 → H28
陸上	75 → 75	23 → 21	30 → 32	346 → 339	0 → 0	474 → 467
水泳	15 → 18	1 → 2	2 → 1	31 → 34		49 → 55
アーチェリー	3 → 2		4 → 4		0 → 0	7 → 6
卓球	15 → 22	0 → 0	3 → 3	24 → 24		42 → 49
サウンドテーブルテニス		20 → 17				20 → 17
フライングディスク	34 → 29	1 → 1	20 → 20	145 → 161	0 → 1	200 → 212
ボウリング				48 → 50		48 → 50
レクリエーション				186 → 195		186 → 195
合計	142 → 146	45 → 41	59 → 60	780 → 803	0 → 1	1,026 → 1,051

5 第16回全国障害者スポーツ大会派遣候補選手について（個人競技）

平成28年6月1日に開催された第2回鹿児島県障害者スポーツ大会企画委員会において、今年10月22日から岩手県で開催される第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」の派遣候補選手が、次のとおり内定した。

○陸上：18名（身体9，知的9）	○卓球：5名（身体3，知的2）
○水泳：5名（身体3，知的2）	○フライングディスク：7名（身体4，知的3）
○アーチェリー：1名（身体1）	○ボウリング：3名（知的3）

※ 現在、派遣内定選手に対し、参加の意向を確認中であり、確認できた選手には、派遣選手決定通知を送付している。

(参考) 県選手団派遣日程

- 10月20日（木） 選手団結団式，岩手県へ出発
- 10月21日（金） 公式練習会
- 10月22日（土） 開会式，競技
- 10月23日（日） 競技
- 10月24日（月） 競技，閉会式
- 10月25日（火） 岩手県離県，選手団解団式

(報告事項) 平成28年度九州ブロック予選会の開催状況

1 平成28年度九州ブロック予選会の開催状況

競技名 (対象障害)	開催日・場所	性別	優勝チーム	参加チーム
車椅子バスケットボール (車椅子使用の肢体障害)	6月11～12日 佐賀県 諸富文化体育館	混合可	長崎県	・計8チーム 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県 , 沖縄県, 北九州市
バスケットボール (知的障害)	4月2～3日 福岡市 アクオン福岡	男子	福岡市	・計8チーム 福岡県, 長崎県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県 , 沖縄県, 北九州市, 福岡市
		女子	長崎県	・計5チーム 福岡県, 長崎県, 大分県, 宮崎県, 沖縄県
グランドソフトボール (視覚障害)	5月7日～8日 鹿児島市 ふれあいスポーツランド	混合可	福岡県	・計6チーム 福岡県, 長崎県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県 , 沖縄県
ソフトボール (知的障害)	5月14日 福岡市 雁ノ巣球場	混合可	長崎県	・計3チーム 福岡県, 長崎県, 福岡市
フットベースボール (知的障害)	6月19日 長崎県 長与町総合公園	混合可	※熊本県	・計3チーム 長崎県, 熊本県, 福岡市
バレーボール (聴覚障害)	5月21日 鹿児島市 郡山体育館	男子	長崎県	・計3チーム 長崎県, 沖縄県, 福岡市
		女子	沖縄県	・計5チーム 長崎県, 熊本県, 大分県, 沖縄県, 福岡市
バレーボール (知的障害)	5月22日 北九州市 障害者スポーツセンター「アリス」	男子	北九州市	・計2チーム 宮崎県, 北九州市
		女子	福岡県	・計3チーム 福岡県, 大分県, 宮崎県
バレーボール (精神障害)	4月23～24日 北九州市 小倉北体育館	混合	福岡県	・計8チーム 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 大分県, 鹿児島県 , 沖縄県, 北九州市, 福岡市
サッカー (知的障害)	4月17日 鹿児島市 県立サッカー・ラグビー場	混合可	沖縄県	・計2チーム 鹿児島県 , 沖縄県 (熊本地震の影響により 長崎県, 熊本県不参加)

※ 本検討委員会終了後に大会結果について追記

2 鹿児島県代表チームの九州ブロック予選会結果

- バスケットボール男子 (知的障害) . . . 1回戦敗退
- グランドソフトボール (視覚障害) . . . 1回戦敗退
- バレーボール (精神障害) . . . 3位入賞
- サッカー (知的障害) . . . 準優勝
- 車椅子バスケットボール (肢体不自由) . . . 準決勝敗退

(参考) 平成29年度九州ブロック予選会の開催予定県・市について

各競技の平成29年度九州ブロック予選会の開催予定県・市は、次のとおり

○車椅子バスケットボール	宮崎県	○バレーボール (聴覚)	沖縄県
○バスケットボール	沖縄県	○バレーボール (知的)	大分県
○グランドソフトボール	大分県	○バレーボール (精神)	福岡市
○ソフトボール	北九州市	○サッカー	熊本県
○フットベースボール	福岡市		

(報告事項) 障害者スポーツ振興事業

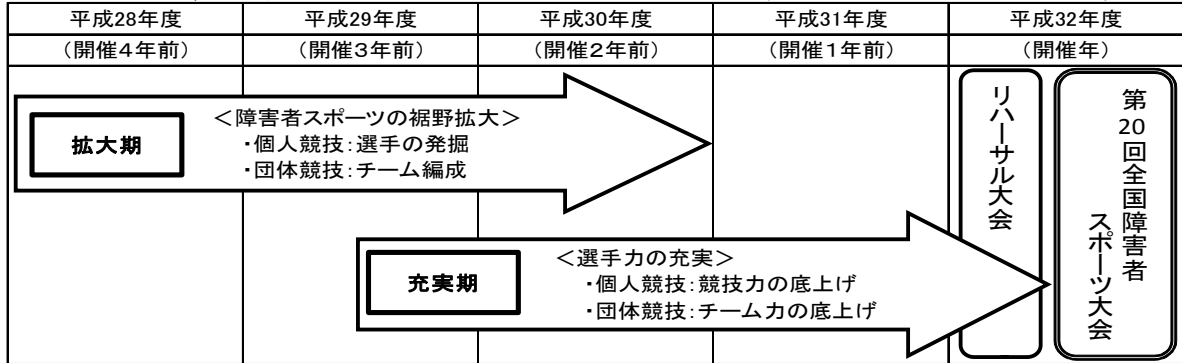
1 実施方法

県障害者スポーツ協会への委託事業として実施

2 事業概要

全国障害者スポーツ大会の参加選手の確保・育成を図るため、スポーツ体験教室、レベルアップ教室等の事業を行う。

平成28年度は、障害者スポーツの裾野拡大に重点を置いた取組を実施する。



(1) 個人競技普及事業

○スポーツ体験教室の開催

- ・目的：選手の発掘，全国障害者スポーツ大会実施競技の認知度向上
- ・回数：2回以上（鹿児島市内，市外各1回以上）
- ・内容：競技未経験者を対象に，個人競技6競技（陸上，水泳，アーチェリー，卓球，フライングディスク，ボウリング）の複数の競技を体験できる教室を開催

○レベルアップ教室の開催

- ・目的：選手の育成，選手の定着
- ・回数：2回以上（鹿児島市内，市外各1回以上）
- ・内容：競技経験者，体験教室参加者を対象に，レベルアップ教室を開催
障害の区分判定を行い，指導者を交えた各競技の練習，記録の計測を実施

(2) 団体競技普及事業

○スポーツ体験教室の開催

- ・目的：選手の発掘，各団体競技の認知度向上
- ・回数：7回以上
- ・内容：競技未経験者を対象に，各団体競技の体験教室を，盲学校，聾学校等の特別支援学校や運動場を所有する大規模な障害者支援施設等において開催

○団体競技チーム結成状況

車椅子バスケットボール	身	○	サッカー	知	○	フットベースボール	知	×
グランドソフトボール	身	○	バスケットボール(男)	知	○	バレーボール(男)	知	×
聴覚バレーボール(男)	身	×	バスケットボール(女)	知	×	バレーボール(女)	知	×
聴覚バレーボール(女)	身	×	ソフトボール	知	○	バレーボール	精	○

○レベルアップ教室の開催

- ・目的：選手の育成，選手の定着
- ・回数：7回以上
- ・内容：競技経験者，体験教室参加者を対象に，レベルアップ教室を開催
指導者を交えた練習，ミニゲーム等を実施

(3) 人件費，事務費

非常勤職員1名の人件費及び事務費

【事業費計：5,622千円】